

住宅・建築関連先導技術開発審査委員会における審査結果を踏まえた、平成21年度 住宅・建築関連先導技術開発助成事業の採択課題(新規24課題、継続27課題)は以下のとおり。

1 住宅等におけるエネルギーの効率的な利用に資する技術開発(応募件数22件、採択件数16件)
 <新規>

番号	技術開発課題名・概要	事業者
1	近未来のライフスタイル変化を考慮したトータル・ディマンドの予測手法の技術開発 (概要)家庭用コジェネシステムの導入促進に必須となる2次側デマンドの高時間分解能予測に関し、生活スケジュールの確率予測法をベースにした積み上げ法に基づく予測手法を構築する。	・国立大学法人九州大学 (大学院総合理工学研究院都市建築環境工学研究室 教授 谷本潤) (大学院総合理工学研究院都市建築環境工学研究室 准教授 萩島理) ・株式会社構造計画研究所 (CEO 服部正太) (創造工学部 脇田宗也)
2	パンプ手法を応用したトータル空調(暖冷房・調湿・換気)対応の省エネ型住宅用デシカントシステムの技術開発 (概要)シリカゲルによる調湿、蓄熱材による熱回収、ヒートポンプによる温度調節、太陽熱利用等のパンプ手法を応用して、冷暖房・調湿・換気を同時に行う省エネ型住宅用デシカント空調システムを開発する。	・J建築システム株式会社(代表取締役 手塚純一) ・東京大学(東京大学 生産技術研究所 計測技術開発センター 助教 樋山恭助) ・富士シリシア化学株式会社(機能材料グループ リーダー 伊藤陸弘)
3	住宅の環境負荷削減要素技術の導入促進に関する技術開発 (概要)我が国の住宅の環境負荷低減技術レベルをボトムアップするため、工務店等の建設事業者や施主を対象とした低環境負荷要素技術の導入を促進する設計技術、居住者の省エネ行為など需要抑制方法の普及技術の開発を行う。	・独立行政法人建築研究所(環境研究グループ 上席研究員 桑沢保夫) ・財団法人建築環境・省エネルギー機構(企画・環境部 青木正諭)
4	オフィスの知的創造性を高める省エネルギーサーカディアン照明・温熱環境制御手法の開発 (概要)オフィスの知的創造性を高める室内環境制御手法として、サーカディアンリズムを考慮した光環境・温熱環境の省エネルギー制御手法を開発する。また、制御手法開発時に必要となる、知的創造性の測定方法を開発する。	・株式会社竹中工務店(技術研究所 環境・計画部門マネージャー 樋口祥明) ・東京大学(生産技術研究所 教授 加藤信介) ・足利工業大学(教授兼睡眠科学センター長 小林敏孝) ・北陸学院大学(教授兼医師(精神医学) 吉井光信)
5	雨水利用壁面緑化による暑熱環境の改善および省エネルギーの効果を定量化する熱・水収支的評価技術の開発 (概要)雨水を利用した低コスト汎用型壁面緑化「緑のカーテン」を用いて、夏季における住宅等の暑熱環境改善と省エネルギー効果について、熱・水収支解析から定量的に評価する技術を開発し、最適なシステム構成を提案する。	・国立大学法人山口大学(農学部生物資源環境科学科 教授 山本晴彦) ・山口菱洋システム株式会社(営業部 部長 伊藤重稔)
6	蒸暑期にも有効な超高断熱・高気密住宅(パンプハウス)に関する技術開発 (概要)PCM部材や可変透湿防水膜を木質系超高断熱外皮に組み込み、顕熱交換換気システムと組み合わせ、数値・実験両面から建物の熱・湿気性能を調整し、冷暖房・除湿負荷が最小で平準化する組み合わせを探り出すことである。	・ハイシマ工業株式会社(代表取締役 龍島 一弘) ・京都工芸繊維大学(造形工学部門 工学科学研究科 准教授 芝池 英樹) ・神戸大学(工学部建築学科 都市環境・設備計画研究室 教授 森山正和、准教授 竹林英樹) ・ヤノ技研(代表取締役 矢野 直達)
7	戸建住宅における領域統合システム開発 (概要)植栽による微気候調整、断熱と遮熱、冷気導入、重力排熱、地熱利用冷放射壁システム、夜間蓄冷などを統合させ、クーラーに頼らない快適な涼房空間の実現手法を、モデル棟実証を通して確立する。	・東海大学(工学部建築学科 准教授 高橋達) ・株式会社チームネット(代表取締役 甲斐 徹郎) ・オイスECO株式会社(営業本部住宅機器統括部長 浜中勝治) ・株式会社松本材木店(代表取締役 松本 泰典)